

平成31年度 【教科シラバス表】

教科名(芸術) 科目名(美術 I) (2) 単位 (1) 学年 履修規定(必修)
 担当者 (勝野 吉人)

1. 教科書、副教材

教科書	高校生の美術1(日本文教出版)
副教材	

2. 科目の達成目標

美術の創造的な諸活動を通して、美的体験を豊かにし、生涯にわたり美術を愛好する心情を育てるとともに、感性を高め、個性豊かな表現と鑑賞の能力を伸ばし、美術文化についての理解を深める。主体的に美しさや良さ、価値を見出し、追求していく態度、また、他者の感性や考え方の違いを理解・尊重し、柔軟な物の見方や新しい見方を生み出す力を養う。「自己理解を深め」、「心身ともに健全でたくましい人間を育む」。(※「 」は本校の学校重点目標)

3. 学習の計画

		進行計画	授業概要	考査範囲(主なねらいなど)	時間(予定)
前期	4月	オリエンテーション ・鉛筆の使い方、陰影等について	・美術 I の学習について、進め方、心構えなど ・鉛筆の削り方、使い方、グラデーション	第1回 ・教室の使用の仕方、態度目標や見通しなどを持つ。 ・基本的な理解と意識や感性の拡張を図る。 ・見方を理解し、応用して陰影、質感、立体感などを描き表す。	1
	5月	球を描く (人物クロッキーについて) 静物単体を描く	・円を描く、球を描く、陰影の見方、付け方など ・身近な静物単体の素描 ・基本形態、視点の位置、パース等を意識し、比率を観察して描く ・質感や重量感、実在感まで追求する。		3 4
	6月			第2回 ・内面を深く見つめられたか。 ・骨格や各部の基本形態を意識し、立体的に描けたか。 ・木炭の特性を生かして表現できたか。 ・粘り強く追及できたか。	5
	7月	人物を描く(木炭) ◆1アニメーション鑑賞	・顔の構造等の理解 ・木炭及び木炭紙、消し具の扱い方 ・顔の各部分の比例、光源と明暗、立体、面などの意識		8
	8月	◆2アニメーション鑑賞		第3回 ・色の三属性、色相環、補色、調和等について理解したか。 ・基調色、主張色、面積比について理解できたか。 ・色を読み取り、多様な色を作ることができたか。	4
	9月	(抽象)色の印象の再現的表現 ・教科書掲載の作品をモチーフに	・作品の雰囲気の色のみで抽象的に再現する。 ・基調色、主張色の理解、雰囲気効果の考察 ・画面から色を読み取り、調色する。		
後期	10月		・筆のタッチ(幅、長さ)、点、面、線など構成に活かす。 ・塗り重ねなど画肌を意識する。 面積比や構成の要素などを考慮して抽象的に表現する。	第4回 ・筆のタッチなど構成要素として活用できたか。 ・塗り重ねなど画肌を意識できたか。 ・絵の具の扱いを理解できたか。 ・モチーフの作品の雰囲気を抽象的に再現できたか。	6
	11月	社会に向き合うイラスト表現 ・生きていて感じる事、関心のある問題をテーマに表現する	・問題について調べ、レポートにまとめる。 ・人間(社会)に対する思いの表現を工夫する。 ・問題に関連するものを構成して描く。 ・制作意図を言語化する。(用紙に記入し提出する。)		第5回 ・問題についてよく調べ、意識を深められたか。 ・視覚的な資料を積極的に収集したか。 ・関連するものを効果的に表現に結びつけられたか。 ・人間(社会)への思いを表現できたか。 ・制作意図を言語化(用紙で提出)できたか。 ・共感を呼ぶ作品ができたか。 ・日本美術に関心が向き、その特質について理解できたか。 ・作品の美術史上の意味が理解できたか。
	12月			9	
	1月	◆作家インタビューを見る 鑑賞 美術史の中から	・作品を1, 2点取り上げて、日本美術の特質や美術史上における意味などについて考える。		
	2月				
3月					
評価の観点・方法		・各課題の学習のねらいに応え、達成できたか。 ・興味・関心を持ち、意欲的に取り組んだか。 ・表現方法など工夫して粘り強くテーマを追求したか。 ・積極的に資料やスケッチ収集、調べものなど行ったか。 ・制作意図など自分の作品について十分説明できたか。 ・作品を完成することができたか。 ・準備、片付け、提出物、出席状況など 以上総合的に評価する。			64
学習への注意・助言		上手い下手にとらわれず、誠実に取り組み作品を完成させよう。日常的に描き、目と手を慣らそう。美術展などに足を運び、できるだけ多くの作品を見よう。新聞や雑誌などの気になる記事、写真などを集めスクラップしよう。			